

事務事業 No./名 称	■サービス部門 まち-07 旧華頂宮邸管理運営事業						
	□支援部門						
主管課	都市景観課		関連課				
分野名	都市景観						
目標 (目標値)	文化的価値の高い洋風建築物の保存と活用を図る。						
人口等の データ	データ区分	23年度	22年度	21年度	備 考		
	人 口	177,204人	177,161人	176,669人			
	世 帯 数	79,217世帯	78,812世帯	78,131世帯			
運営資源 状 況	事業の対象者数						
	決算値(千円)	15,542	15,603	15,614			
	(国・県)						
	(負担金等)						
	(一般財源)	15,542	15,603	15,614			
	人員配置数	1.5	1.5	1.5			
	人件費(千円)	12,920	13,192	13,489			
	協働の パートナー	宅間ボランティアの会 旧華頂宮邸活用検討協議会	宅間ボランティアの会	宅間ボランティアの会			
事務事業 運営経費	総事業費(千円)	28,462	28,795	29,103			
	市民1人当 りの経費(円)	161	163	165			
	対象者1人 当りの経費(円)						
ベンチマーク (県内外自治体 や民間団体と の比較値)	団体名⇒						
指 標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(年度)
入場者数	◎	目標値	18,000人	18,000人	18,000人	18,000人	18,500人
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △目標を越え 〇後退		実績値	22,586人	20,104人	19,061人		

評価のポイント

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

小事業名	H23決算値	評価	適切＝○、要改善＝△(評価の視点を参照)	⇒	方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止									
旧華頂宮邸管理運営事業	15,542千円	①効率性	○	②妥当性	○	③有効性	○	④公平性	○	⇒	■A	□B	□C	□D	□E
	事業の概要	文化的価値の高い洋風建築物の保存と活用を図る。													
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒	□A	□B	□C	□D	□E
	事業の概要														
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒	□A	□B	□C	□D	□E
	事業の概要														
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒	□A	□B	□C	□D	□E
	事業の概要														
		①効率性		②妥当性		③有効性		④公平性		⇒	□A	□B	□C	□D	□E
	事業の概要														

事務事業の課題及び取組状況

H23年度の課題	・保存活用にあたっては、大規模な修繕を行い、関係法令に適合させる必要がある。 ・保存活用方策の検討にあたっては、市民、地域住民の理解が必要であり、専門家を交えた実験活用の実施、検証が必要である。
課題解決のための取組	・旧華頂宮邸活用検討協議会を運営し、活用検討の一環として、地域住民や景観整備機構と協働により実験活用を実施した。 ・これらの成果を基に、市民の意見を反映した保存活用方策の策定に向けた「提言」を得た。
未解決の課題	・大規模な修繕を行い、関係法令に適合させる必要がある。 ・旧華頂宮邸活用検討協議会の「提言」を受け、継続的に実験活用を実施し、具体的な活用方針を策定する。

中事業の評価と今後の方向性

中事業の評価	適切＝○ 要改善＝△ (評価の視点を参照)	①効率性 ○	今後の 方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止 ・大規模な修繕の実施に向け、庁内関係課等と調整を図る。 ・旧華頂宮邸活用検討協議会の「提言」を受け、継続的に実験活用を実施するための体制を作る。 ・「提言」及び実験活用の成果を基に、具体的な活用方針を策定する。	※□事業完了
	②妥当性 ○	↓ A			課長等名
	③有効性 ○				都市景観課長
	④公平性 ○				大場将光

(2面) 個別事業の概要

(単位:千円)

[illegible]